

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 閉会中継続調査事件

(1) 外国人材の受け入れと共生の推進について

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、今月12日から14日の日程で、東京都新宿区、埼玉県川口市へ行政調査を行った。
- ・ ここで本日は、今回の行政調査を踏まえ、各委員から、調査項目であった在住外国人に対する事業や事業のPR、ニーズ調査、在住外国人の子どもに対する支援等について、意見や考えなどを伺いたいと考えているが、よろしいか。（異議なし）
- ・ それでは、早速進めさせていただく。
- ・ なお、発言の順番については、大会派順に願います。

○金澤 浩幸委員

- ・ 新宿区と川口市を視察したが、総体的に話を伺い、外国人の人数はたくさんいるのは確認したが、ただ受け入れ体制としては、相談窓口だとかそういう体制は出来ているが、まだまだ相談に来る人数も、いらっしゃる人数に比較すると思ったより少ないのかなということと、相談以降の、例えば地域住民との交流とかそこら辺については、外国人の方にもいろんな課題があるんだろうし、受け入れる住民の皆さんの意識等がまだまだ醸成されてないのかなと。されていないことによって、なかなか交流のほうもうまくいっていないのかなという感じを受けてきたところだ。
- ・ それを函館にどのように生かしていくのかを考えたときには——昨日か、市役所に行ったら案内板の企画部のところに外国人の相談窓口のシールを張っていた。ちょうどいい機会だったので、その場で担当課長とも話をしたが、函館もある程度は相談には来ている。市役所のほうにもある程度は来ているし、H I Fのほうにもある程度は来るようにはなっているという話は聞いているので、函館市としてもその後の、役所だけじゃなくて、それをいかに地域としてどう迎え入れてあげられるのか、そういう体制をこれから作っていければいいのかなと感じている。

○福島 恭二委員

- ・ 都市規模が違うので一概に比較して言えないとは思いますが、確かに新宿区も日本一と言われるくらい外国人が多いということもあって、それなりの対策はされているなという感じはあった。大都市だからあまり自発的にPRしなくても入ってくるのかなという感じもしたし、とはいえ、それに対する対策も施されているし、行った場合の相談窓口も設置をされて体制はとられているなという感じもしたし、同時に、言葉の問題はもちろんだが文化の問題等々、日本に来た場合の文化の、いわゆる多文化交流というか外国人との交流の場が設置されているということで、受け入れ体制は万全だなという感じはした。
- ・ 川口市も同じだが、川口市としてもこれについて、簡単に言うと卵が先か、鶏が先かという議論にもなるのかなとの感じもするが、受け入れ体制を万全にすることによって来やすい環境も整ったとい

うことから、外国人の口コミ等々で川口がいいとか、新宿がいいとかということで入ってくることになるのかと思うので、やっぱり来てからの対応よりは、来るための対策、受け入れ体制を整えておくことが必要ではないかということを感じた。

- ・ そのためにも、惜しまずと言えば語弊があるが、結構お金もかかるようだし、それなりに心して財政対策もされているという感じもしたので、そんなことも当市の対策について、これから提言していきなり、発言をしていきたいなと思ってまいった。

○紺谷 克孝委員

- ・ 2市を行政調査してきて、感じたことを中心にお話をしたいと思うが、函館は人口比でおよそ0.4%の外国人だが、この2市は、新宿区では約43,000人、人口比で12.4%と聞いてびっくりしたわけだが、川口市では33,000人程度で、人口比5.5%ということで、人口比とか人数からいっても圧倒的にこの2市が多いということで、即具体的な参考にはならないにしても、外国人を受け入れることについての行政の対応が、具体的でよくわかった。
- ・ 特に新宿区では、多文化共生プラザという会館——こっちで言えば新しくできる亀田の交流プラザみたいな感じではないかと——が外国人のためのプラザということで。日本語教室が、プラザでやっているほかに9カ所もあって、毎週、さまざまな外国語——韓国語、中国語、タイ語とかネパール——で日本語を勉強しているということで、大した受け入れ体制だと思った。
- ・ 川口市では、中国系の住民が多くて、東京都にITで働いている中国系の労働者を中心に、居住が交通に便利なJR駅の周辺に密集していると。そして教えている言葉で、とりあえず日本で生活する必要最低限の日本語ということで、サバイバル日本語というのを教えていると。これは私、あまりよくわからなかったが、そういう日本語を教えるということで感心した。
- ・ やはり日本人と一緒に居住して、日本の環境に慣れ、日本人と共同で暮らせるために、こういう施策が積極的に取られていると。両市とも外国人を否定、拒否などをせずに、快適に日本人と共同で一緒に暮らせていくための自治体の努力が感じられた。
- ・ 函館市は毎年3,000人ずつ人が減っている。川口市は、毎年外国人が3,000人ずつふえている。外国人を受け入れることによって人口を増加させているということに、自治体の人口増に対する執念のようなものを感じた。以上だ。

○小野沢 猛史委員

- ・ 大変勉強になった。ただ、あまりに環境が違い過ぎて……ここまで進んでいるのかと。特にテレビで視察前にもやっていたが、新大久保は住民の4割が外国人だということで、ものすごい国際化と言っているのか、進んでいるんだなと感じた。
- ・ そういう中で、両市いろいろ施策を展開していて、必要なこと、考えられることはほぼパーフェクトに取り組んでいるんだなと思った。
- ・ 特に説明の中で、どっちだったか記憶がはっきりしないが、外国人を支援する対象として捉えるのではなく、外国人が支援する側に回るというような捉え方をすると説明の中であって、大変印象的だったなということで、やること、やれることはほぼパーフェクトに取り組んでいるんだなと思ったけど、そんな説明を聞きながら、あとは意識の問題、意識をどう変えていくかというところが非常に大きなポイントになるのかなと。
- ・ そういう意味では、函館は外国人の割合も実人数も非常に少ないが、意識をどう変えていくかとい

うところからスタートすることがきつと大事なのかなと感じた。そんな視点で、これからも少し私も勉強してみようかなと思っている。以上だ。

○中山 治委員

- ・ 大変勉強になって、2つの都市だが、約4万人の外国人の方がいらっしゃるということで、その中でいろいろ話あったが、一番——お題の方にもあったが——小学校の方で4割外国人がいる学校があるというのが驚かされて、学校、教育の子供に対しての部分というのが本当に進んでいるなというのを感じさせていただいて、函館はまだ1,000人くらいの外国人なんで、そこまでの部分はないのかもしれないが、家族がいて、子供が函館でも住める環境、そういうところは、これからも市としても考えていかなければならないと感じた。そういう教育という子供に対する支援体制をいうのが、今後必要になるのかなと思っている。

○日角 邦夫委員

- ・ 先進自治体の調査ということでは、ストレートに函館とは違って進んでいるということだ。とりわけ新宿区で1時間くらい待合室にいたときに、来る方のほとんどが外国人のように見受けられた。やっぱり全体として多いからそういう形なのかなと思ったし、いろいろ担当者の方から説明を聞いていても、プラザの問題とかいろんな事業を展開しているということだ。
- ・ 町に出れば、それなりに観光客の皆さんは、函館もそうだが、区役所自体に来る人を見れば、やっぱり多いんだということだ。
- ・ それから川口市については、本当にさまざまな取り組みを、財源どこから出ているか質問しなかったが、本当に事業としてはかなり展開している。思うに、教育の関係についてはすごく力を入れているんだなと。この小学校の子供たちが、中学になったらどうなるんだろうと思ったが、説明では、小学校は多いけれども、ストレートに中学校というふうにはいかないと言っていたので、これが小・中ずっと学習していれば何年か後には大きな成果になるのではないかと考えた。
- ・ あと、川口市の場合は、実際に働くのは東京、首都圏で働いて、ベッドタウンということで、もともと高齢者が多いところ、あと空き家、そこをうまく利用しながら外国人の方に住居を提供しているなど、そういうことを合わせながら取り組んでいる。函館とは規模が違うが、うちは今、試みの段階かと思うが、本当によい視察、よい場所に行ったのではないかと思う。

○小林 芳幸委員

- ・ 皆さんの意見はそのとおりだったと思う。受け入れの事業や教育、さまざまな部分で参考にさせていただいた。特に、私は新宿区の方で質問させてもらったが、偏見や差別をどのような感じかということでアンケート調査をしており、偏見、差別を感じたのが、家を探すときに51%、半数以上がそう感じているということで、そこで新宿区ではオーナーとも懇談をして、こっちが受け入れるつもりでも、なかなかマッチングできない状況もあるというような話もあって、外国人の数が多からとか、少ないからとかというよりも、少なくとも多くても同じような問題があるのかなと思った。実際、函館市でも外国人の住まいを探すというのは本当に大変だという声もあるので、さまざまな取り組みを参考にさせていただいた。
- ・ 川口市についても、ある地域でURの大きな団地があって、そこに中国人系の方がたくさん住んでいるということで、URのほうで新たに外国人を対象にして、そこにたくさん住むようになったという話もあったけれど、さまざま問題があったとお聞きしたが、利便性のいい所じゃないと外国人の方

が住むのも大変なので、函館市でも中心市街地を中心にそのような受け入れ環境の整備も必要なのかなと感じたので、その辺の今後の展開もしていかなければならないなと思った。

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ 皆さんからいろんな意見いただき、ありがとうございます。今、日本で1番と言われている東京都新宿区、そしてナンバー2と言われている埼玉県川口市。人口で外国人の割合が最も多い先進の2カ所に行けたというのは、私も大変参考になったのではないかと思います。もちろん、人口の規模とかそういうのは函館市とは違うが、最先端の所でやっている相談体制や教育の部分とかさまざまなことが本当にわかって、それを全て当市に生かされるかというところと難しいところもあるとは思いますが、本当に参考になった。
- ・ そういう中で、本当に情報の伝え方というか、いかに外国の方々に、相談窓口開いているとか、情報をしっかり伝えていかなければ、なかなか利用の頻度も上がっていかないことも改めてわかった。そういう意味で、情報をきちんと伝えていくその伝え方も非常に大事だと感じた次第である。
- ・ 本日、各委員からいただいた意見等を踏まえ、正副で調査報告書を調製し、後日、各委員へ配付させていただきますのでご承知おき願う。
- ・ その他、本件について、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することとなるが、委員長の報告文については委員長に一任願いたいと思う。これに異議あるか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（齊藤 佐知子）

- ・ その他、各委員から何か発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時20分散会